

授業科目 看護研究方法論	科目概要・形式 2単位 30時間	配当年次 1年 前期
科目責任者	角濱 春美	
担当者	大関 信子、角濱 春美、木村恵美子、清水健史	
1. 科目のねらい・目標 看護研究の基本的な方法、研究過程を習得する。また、既存の研究を批判的に分析し、研究を臨床実践に活用する能力を修得する。 <到達目標> 1. 看護研究の意義と動向を理解し、科学的思考法について理解できる。 2. 研究デザイン、研究方法について理解し、正しく論文を読むことを通し、研究実践ができる基礎的能力を習得する。 3. 研究成果を活用するにあたり必要なクリティーク能力を身に付け、EBPの実践と普及ができる基礎的知識を獲得する。		
2. 授業計画・内容 1) 授業計画 第1—2回 看護研究の基礎と概念【角濱】 看護研究の目的、臨床実践に資する看護研究とは何か、科学的思考とは何か 概念的な文脈の理解 第3—4回 看護研究のためのデザイン【木村】 量的研究のデザイン、質的研究のデザイン、方法論的トライアングレーション 第5—6回 測定とデータ収集・分析—測定用具の信頼性・妥当性—【木村】 データの収集方法（質問紙法、測定法、観察法）、 研究結果を理解するための分析方法の理解（統計解析の読み方） 第7回 事例研究の方法論【木村】 科学的な事例研究とは、振り返り型事例研究、仮説検証型事例研究、 事例研究への看護理論の活用 第8—9回 質的研究の方法論【清水】 質的研究の種類、基盤となる理論と分析方法の理解、 看護学・看護実践における質的研究の役割 第10—11回 看護研究の批判的分析、研究報告・研究論文の読み方・書き方【大関】 研究のクリティークのための視点、研究を臨床実践に取り入れるための視点 研究論文の読み方・書き方 第12—13回 Evidence-based Practice の基礎的理解【角濱】 EBPの定義と歴史、エビデンスヒエラルキー、臨床実践ガイドラインと普及、 EBP普及に関わるモデル、EBP普及のための組織要因・個人要因 第14—15回目 研究の実践への活用モデル【角濱】 研究活用のプロセスと EBP、Systematic Review、臨床実践のガイドライン、 EBPのステップ（PICOT Format）、Evidenceとなる看護研究の推進 2) 授業内容 学生によるプレゼンテーションを主体とした授業を行う		
3. 教科書、参考書 <教科書> D.F.ポーリット&C.T.ベック著、近藤潤子監訳（2010）：看護研究—原理と方法 第2版、医学書院、2010. ISBN 978-4-260-00526-5 <参考書> バーンズ&グローブ著、黒田裕子他監訳（2007）：バーンズ&グローブ 看護研究入門、エルゼビアジャパン、高木廣文、林邦彦（2006）：エビデンスのための看護研究の読み方・進め方、中山書店。 これ以外は授業で随時紹介		
4. 成績評価方法 レポート評価とする		
5. 受講要件 なし		
6. 社会人学生に対する配慮 夜間、土日開講とする。		
7. その他		